

令和5年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
(障害者スポーツの実施環境に整備等に向けたモデル創出事業)

取組成果報告

取組テーマ：地域の課題に対応した障害者に対するスポーツの振興、実施環境の整備

一般社団法人日本デフバレーボール協会



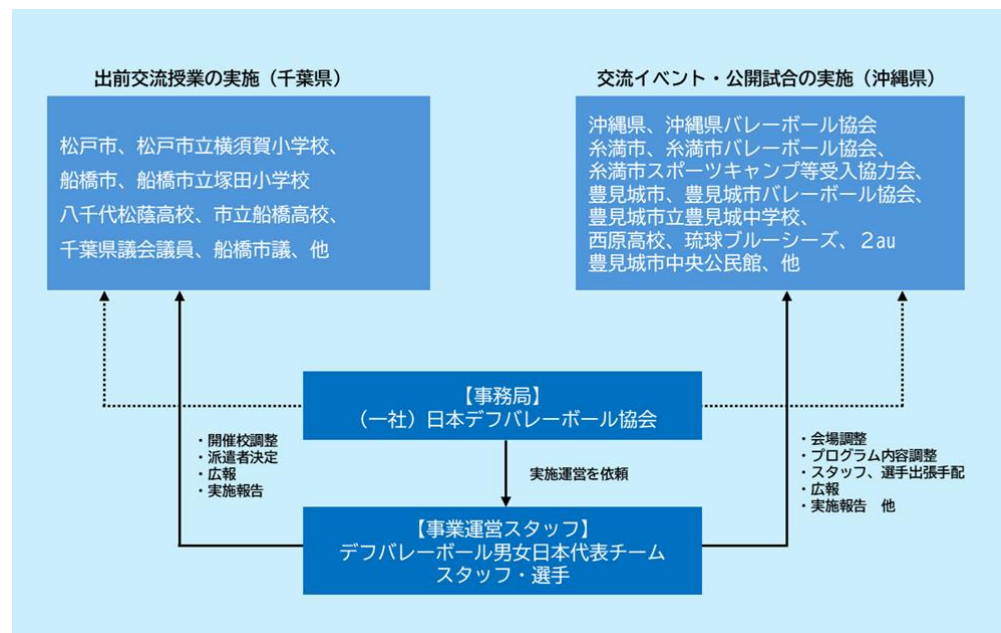
【事業趣旨】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、障害者スポーツに関する周知や理解は促進されたが、聴覚障害者を対象としたスポーツ（デフスポーツ）の普及啓発や振興を目的とした取組はこれまで実施されていない。

また、聴覚障害は「目に見えない障害」であるため、他の障害種別と比較して理解も進んでいるとは言い難い。東京2025デフリンピックの開催が決定したが、バレーボール競技はその前年（2024年）に沖縄県で世界選手権が開催される。このため、本事業では、この2大世界大会の国内開催を契機として、デフスポーツやデフバレーボールの認知拡大を図り、聴覚障害者のスポーツ機会拡充はもとより、障害に対する理解が促進されることで、聴覚障害者と健聴者が「ともに」スポーツを実施する機会創出を図ることで、障害者スポーツ人口の拡大に貢献することを目的とする。

【主な事業内容】

- 1) 東京2025デフリンピックに向けたデフスポーツ人口の拡大と普及啓発の取組
千葉エリアの小学生を対象とした『出前交流授業』
- 2) デフバレーボール世界選手権2024(沖縄)を契機とした交流/機運醸成イベント
小学生を対象としたデフバレーボール体験・交流イベント
沖縄県内チームとデフバレー代表チームによるエキシビジョンマッチ（公開試合）



千葉エリアの小学生を対象とした『出前交流授業』

日本デフバレーボール協会役員（難聴者）、男子日本代表チーム監督・スタッフ（健聴者）、代表選手（ろうまたは難聴者）が講師役となり、千葉県内の小学校2校にて（各校2回）、デフバレーボールを通じて理解と障害の有無を超えたコミュニケーションについての出前交流事業を実施した。

①松戸市立横須賀小学校での取組

開催日	令和5年12月5日（火）13：45～15：45（45分×2回）
JDVA参加者	大川 裕二（日本デフバレーボール協会理事長） 村井 貴行（男子代表チーム監督）
学校参加者	小学校6年生児童 140名 小学校6年生児童保護者 15名 小学校教職員（校長・教頭・教務主任・5年生担任） 8名
自治体関係者	松戸市にぎわい創造課文化スポーツ振興担当室 2名 松戸市広報課 2名



②船橋市立塚田小学校での取組

開催日	令和6年2月20日（火）13：45～14：45
JDVA参加者	村井 貴行（男子代表チーム監督） 高橋 竜一（男子代表チーム選手） 浅野 英樹（男子代表チームマネージャー）
学校参加者	小学校6年生児童 169名 小学校教職員（校長・教頭・教務主任・6年生担任） 8名
自治体参加者	船橋市生涯スポーツ課 2名 船橋市広報課 2名



デフバレーボール世界選手権2024(沖縄)を契機とした交流/機運醸成イベント

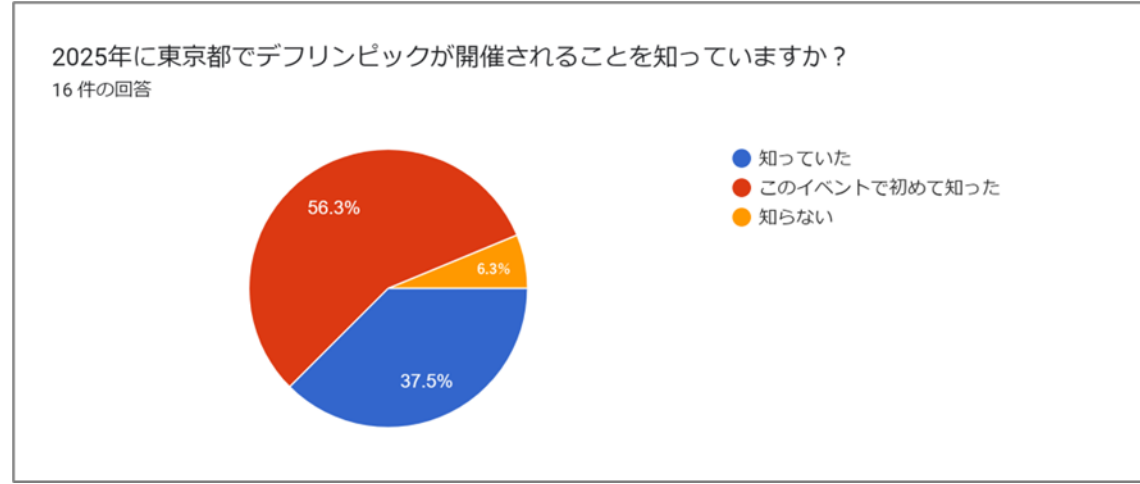
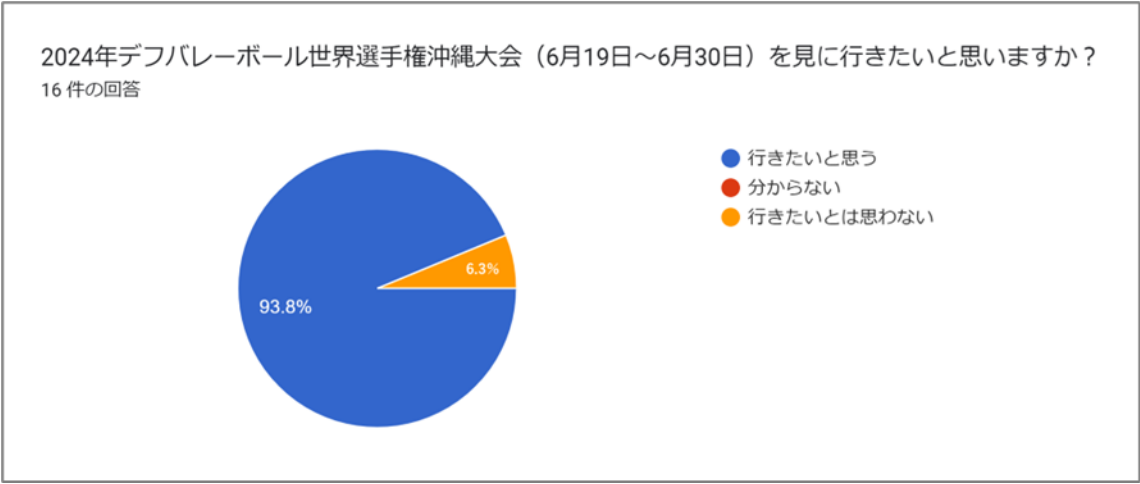
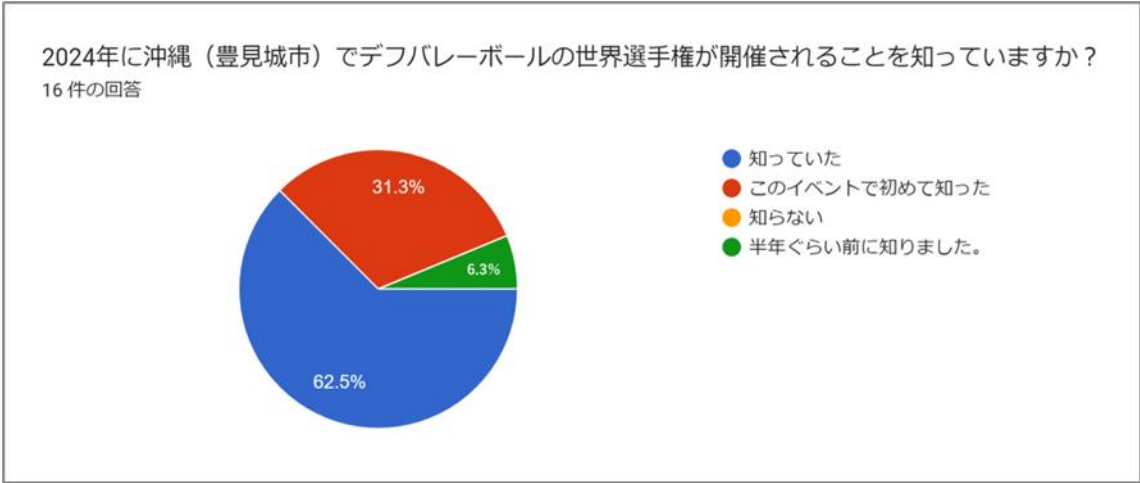
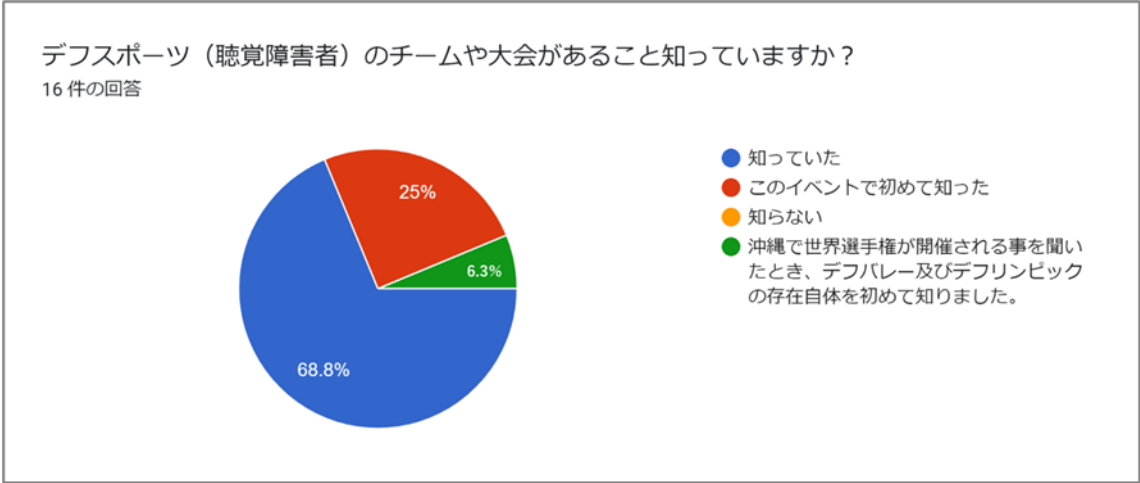
沖縄県内、特に世界選手権の試合・練習会場となる糸満市及び豊見城市の小学生を対象に、男女代表チームの代表選手との交流イベント、県内の健聴バレーボールチームとのエキシビションマッチ（公開試合）を行った。

交流イベントは、簡単な手話や身振りを使ってともにバレーボールを楽しむイベントとし、エキシビションマッチ（公開試合）は、デフバレーの試合を目の前で見ってもらうことで、競技の認知度向上と世界選手権大会に向けての機運醸成を図った。

開催日	令和6年1月20日（土）、21日（土）
会場	糸満市西崎総合体育館、豊見城市立豊見城中学校
交流会参加者	糸満市内小学生バレークラブ40名 豊見城市小学生バレークラブ40名 ※インフルエンザ流行などにより、当日の参加者は約60名
エキシビション マッチ	男子：琉球ブルーシールズ、2 au 女子：沖縄県国体選抜チーム、西原高校3年生チーム ※2日間の延べ観戦者は約200名
自治体参加者	糸満市長、糸満市バレーボール協会会長（副市長） 糸満市観光・スポーツ振興課、糸満市バレーボール協会 豊見城市生涯学習振興課 豊見城中学校男女バレーボール部
交流会 実施内容	・デフバレー交流会 - デフスポーツ、世界選手権、デフリンピックの紹介 - 手話で自己紹介をしてみよう - 手話バトンリレー - バレーボールゲーム（試合） ※エントランスロビーにて、デフバレーボールの歴史を紹介するパネルやトロフィー、アルバムなどを展示



二日間のイベントの中で、参加者に任意でアンケートに回答してもらった。
回答数は16名と多くはなかったが、デフバレーボールやデフリンピックの認知拡大、2024年世界選手権沖縄大会への観戦意欲の向上に貢献できたと思う。



本事業に取り組むことで目指していた「健聴者も聴覚障害者も、「ともに」スポーツを楽しむことができる社会」という姿については、なかなか数値で評価することが困難であるが、千葉での出張教室、沖縄でのイベントにおいてデフバレー・デフスポーツ・手話に初めて触れたという対象者が一定数おり、交流の機会を創出できたことは大きな一歩であった。また、千葉、沖縄のイベント共にメディア取材もあり、露出にもつながった。まずは知ってもらい、体験してもらうこのような機会を増やしていくことで、「聞こえる」「聞こえない」の心理的なハードルは低くなっていくのではないかと考える。

● 松戸市立松戸南小学校 千葉

松戸・横須賀小で「デフバレーボール」学習会 男子代表監督が歴史など紹介
25年東京大会「聴覚障害者競技 応援を」

2023年12月10日 07時55分



「デフリンピック」などについて説明する村井監督（松戸市立横須賀小学校）

2025年に東京で開催される聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」に向けて、競技種目の一つ「デフバレーボール」を知ってもらおうと、千葉県松戸市立横須賀小学校で学習会があった。同校出身で日本男子代表監督の村井監督（40）が講師を務めた。

村井監督は聴覚障害者は「見た目では気付きにくいけどみんなの周りにいる」と紹介。生まれつき耳が聞こえない人を使う「日本手話」と、日本語をベースにした「日本語対应手話」があると説明した。

大会について、パラリンピックよりも歴史が長い一方、「テレビで放映されず認知度は低い」が、17年の大会で女子代表が金メダルを取っている」と話すと、児童からわあっと声が上がった。用意された動画では選手らが「アイコンタクト」が大事になっている」とも伝えた。

村井監督は「東京大会は聴覚障害者のスポーツが知られるターニングポイントになると思う。選手らをぜひ応援して」と呼びかけた。（澤村瑞希）

"日本代表選手と手話でコミュニケーション"デフバレーボール世界選手権2024事前イベント

ページID：0021035
更新日：2024年1月20日更新
[掲載ページへ戻る](#)

令和6年6月に豊見城市を主会場として行われる「デフバレーボール世界選手権2024」を前に、デフバレーボール体験・交流イベントが1月20日（土曜日）、西崎総合体育館で行われました。

デフバレーボールとは、聴覚障害者によるバレーボール競技の事で、チームメイトの声や審判の笛の音、ボールをはじく音などが聞こえない・聞こえにくい選手がプレーします。通常のバレーボールと同じ6人制で行われ、コートや用具競技形式なども同じです。今年6月には豊見城市を主会場、糸満市を練習会場としてデフバレーボール世界選手権2024が開催されることが決定しており、今回は強化試合をかねて、男女の日本代表選手と地域のバレーボール少年団の交流会が行われました。

交流会では、子どもたちが各グループに分かれて選手と手話でバレーボール競技を通じてコミュニケーションを取る様子が見られました。

交流会に参加した兼城フレンズの上江瀬颯乃さん（兼城小6年）は「手話でコミュニケーションを取りながらバレーすることが初めてで、最初は緊張しましたが、耳が聞こえなくても相手の目を見て手話をしたら伝わったので良かったです。身近な人に耳が聞こえない人がいても、手話でコミュニケーションを取れるようにしたいです」と話しました。



6月にデフバレー世界大会開催 協会理事長が玉城デニー知事を表敬訪問

公開日時 2024年02月15日 14:43 更新日時 2024年02月15日 14:43

[Twitter](#) [Facebook](#) [LINE](#) [B!](#)

社会 [#デフバレーボール](#) [#バレーボール](#) [#世界選手権](#) [#玉城デニー](#)



玉城デニー知事（右から4人目）に沖縄での世界選手権開催の協力などを要請した日本デフバレーボール協会の大川裕二理事長（同5人目）ら＝14日、県庁